

歩くことでカラダを、川柳で頭を若返らせる

## 川柳で歩く 広重の「江戸名所百景」

わずか十七音で社会や風俗、人間の真理を映してき江戸の伝統文芸「川柳」と浮世絵師・安藤広重が残した名作「江戸名所百景」をもとに、失われた江戸の匂いを探し、大東京の現在を探ります。

260年間、江戸幕府が置かれて日本の中心であった江戸は、多くの文化や伝統が残ります。さらに明治以降、東京となってからも1世紀以上にわたって発展してきた巨大都市は、どこを歩いても興味深い人間の営みでいっぱい。

案内は、川柳学会の研究者・尾藤一泉氏。

多くの江戸川柳と浮世絵などの豊富な史料を通して、200年前の江戸や明治、戦前といった古きよき時代にトリップ。史跡や名物を訪ねながら江戸・東京文化を満喫します。

ハンディーなテキストは、どこへ行くにもポケットに。

毎回、希望者といっしょに楽しむ各地のご当地の江戸グルメも楽しみ。



川柳発祥の地・蔵前の散策

【開催日】毎月1回 10:00～約3時間程度

【受講料】12600円(2100円・6回) 資料代:525円(月)

【主催】美浜カルチャーセンター 千葉市美浜区真砂4-2-6 TEL:043-277-3321

### 講師・尾藤 一泉 (びとう いっせん)

1960年東京生まれ。尾藤三柳に師事。川柳公論委員などを経て、2005年に川柳学会を創設。2007年より「川柳さくらぎ」主宰。

教育者として武蔵野美術大学、女子美術大学、北里大学の各非常勤講師を勤め、生涯教育では、読売日本テレビ文化センター、東急BEカルチャースクール、美浜カルチャーセンターほか、公募ガイド、新葉館出版・川柳歴史講座などで川柳講座を開講。

文化としての川柳を伝えるため、ホームページ〈Web川柳博物館〉、〈ドクター川柳〉、〈川柳さくらぎ〉などを開設。

開かれた川柳の窓口としてORIXマナー川柳、三社祭川柳、天地人「愛」の川柳コンクールほか多くの公募川柳選者として活躍。

柳界では、川柳学会専務理事、(社)全日本川柳協会常任幹事などを勤めるかわら、川柳史料の収集・整理・研究・保存・修復・公開の業務を行う〈朱雀洞文庫〉を運営する。

主な編著書に『川柳総合大事典』、『目で識る川柳250年』、『鶴彬の川柳と叫び』、『川柳のたのしみ』、尾藤三笠集『親ひとり子ひとり』、句集『門前の道』、『門前の道Ⅱ』、合同句集に『川』、『天』、『さくらの実』などがある。



東京時代祭にて

## 第1回 (4月18日) 大江戸のアミューズメント街 <浅草>

江戸でも東京でも観光の名所。多くの観光客で賑わう浅草寺、仲見世を中心に、色濃く残る江戸文化と史跡を探訪。東京スカイツリーの建設により、また多くのビューポイントが発生。江戸と平成をつなぐ新旧の景色を同時に望むのも一興。脇の隅田ギャラリーでは、川柳展の真っ最中。川柳 250 年の歴史と今日の繁栄を一日で堪能できそう。買物も伝統の江戸小物や名入提灯、七味などの名物ほか、おいしい食物も。

「江戸名所百景」より



吾妻橋金龍山遠望



駒形堂



浅草川大川端



浅草金龍山



猿若町よるの景



川柳展風景 (2007)

コース：隅田ギャラリー (川柳展) —二天門—浅草神社—浅草寺本堂、向影堂—銭塚地藏—観音裏—旧浅草六区—伝法院通り—オレンジ通り (江戸屋) —総門・五重塔—平内堂—時の鐘—芭蕉句碑—仲見世—雷門—駒形堂

集 合：東京メトロ銀座線・浅草駅・7番出口前＝東武線浅草駅改札前

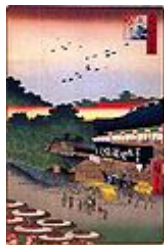
昼 食：(当日)

## 第2回 (5月16日) 川柳 第二のふるさと <上野>

上野には、将軍家の墓所がある寛永寺があります。上野の山は、古く忍が丘と呼ばれ、その麓の広小路は、江戸でも屈指の行楽地として賑やかでした。広小路では、六阿弥陀五番目の常楽院跡をはじめ、今日もアメ横に残る麻利支天 (徳大寺) や池之端の五條天神、江戸の清水の舞台ともいう清水堂、上野東照宮など古い神社仏閣の名所も多い。江戸時代の不忍池は、出合茶屋の立ち並ぶ密会の地。また、広小路は、川柳のバイブル『誹風柳多留』の板元・花屋久次郎の店があった場所で、川柳のふるさとでもあります。



清水堂不忍池



上野山下



下谷広小路



上野山内

コース：上野広小路—花屋久次郎旧跡—アメ横—常楽院跡—麻利支天—横山大観記念館—常楽院別院—不忍池—浮島弁天堂—森鷗外旧居跡—五條天神—上野東照宮

集 合：J R上野駅・不忍口出口前

昼 食：梅川亭 (江戸前のうなぎ)

### 第3回 (6月20日) 江戸庶民の行楽地 <王子>

八代将軍吉宗が飛鳥山に桜を植えて江戸庶民に開放したのは江戸中期。爛熟する庶民文化の中で、川柳も生まれました。王子周辺は、広重の江戸名所百景でも多く描かれた名勝地。今日でも江戸の気分を残す王子稲荷と飛鳥山を中心に、江戸庶民の行楽地を川柳で散策します。王子稲荷は関八州の稲荷総社。毎年大晦日には、狐の行列がある。音無川は〈滝の川〉と呼ばれる急流の渓谷で王子七滝というように滝も多い。また、



飛鳥山



王子稲荷



音無川



不動の滝



王子滝野川



王子装束榎

コース：飛鳥山公園（飛鳥之碑、三つの博物館、旧渋沢栄一邸ほか）—音無川（王子大瀧）—扇屋・海老屋—王子権現—王子稲荷—滝野川（紅葉寺）—不動の滝（正受院・近藤正斎像）

集合：JR王子駅・中央口改札前

昼食：山海亭（王子を見渡せるビュースポット）



2011年1月1日の狐の行列



### 第4回 (7月25日) 江戸の不夜城 <吉原>

日に千両降るといふ吉原。多くの川柳にも読まれた吉原とその周辺は、艶っぽい江戸文化を伝えます。江戸の大歓楽街として今もその面影をとどめる一帯を歩き、かすかに残る江戸の残影を史跡に訊ねましょう。華やかな吉原文化とは裏腹、遊女の悲しい末期は「投込み寺（浄閑寺）」に。また、粋な江戸を伝える御西様の大鷲神社や樋口一葉の小説の舞台になったポイントを歩きます。



吉原日本堤



西の町



箕輪金杉三河島



千束池袈裟懸松



コース：永久寺（目黄不動）—浄閑寺（投込み寺）—千束稲荷—日本堤—見返り柳—大門—吉原—吉原稲荷—吉原弁才天—鷲神社（西の町）—飛不動（正宝寺）—樋口一葉宅跡—一葉記念館

集合：地下鉄三ノ輪駅・三番出口前

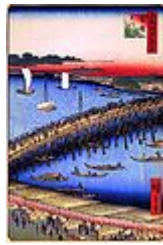
昼食：(当日)

## 第5回 (8月29日) もうひとつの江戸アミューズメント<両国>

両国は江戸の三大アミューズメントスポットのひとつ。両国橋の兩岸の広小路を中心に栄えた江戸庶民の行楽地。振袖火事の被災者を弔う回向院には、鼠小僧次郎吉の墓はじめ、珍しい供養塔など見るものがいっぱいで、江戸の気分を垣間見ることができる。すぐ近くには四十七士の討入で有名な吉良屋敷があり、忠臣蔵の世界へタイムスリップ。勝海舟、葛飾北斎の生誕地があり、〈北斎通り〉と名付けられた一角には、あちこちに路上アートがある。また、両国国技館があり、近くには相撲の始祖とされる野見宿禰を祀った神社もある。江戸のバイアグラやももんじ屋などの風俗話も興味深い。



回向院元柳橋



両国橋大川端



両国花火



大橋あたけの夕立

コース：両国橋—回向院（震災痕跡、鼠小僧墓）—吉良邸跡—北斎生誕地—勝海舟生誕地—  
野見宿禰神社—北斎通り—江戸東京博物館—国技館—築地本願寺—復興記念館—吉葉  
集 合：JR両国駅・西口前  
昼 食：割烹吉葉（相撲部屋の土俵を見ながら）

## 第6回 (9月23日) 幕府の米倉<蔵前> (川柳発祥の地)

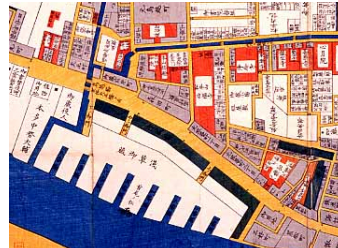
蔵前は、江戸幕府の米倉である〈浅草御蔵〉があったあたり。周辺には、幕府天文台や文庫の旧跡がある。鳥越神社は千貫神輿で有名な古社。都会の中に荘厳な雰囲気を残す。また旧新堀川流域は〈寺町〉であったことから寺院も多く残る。そのひとつ、天台宗龍宝寺は、川柳発祥の地であり、文芸としての川柳の名の元になった柄井川柳の墓所や句碑がある。9月23日は〈川柳忌〉の法要がある。



首尾の松



国芳画・「夜参り八景」蔵前



江戸切絵図より蔵前周辺

コース：浅草御蔵—首尾の松—幕府浅草文庫跡（榊神社）—幕府天文台跡—鳥越神社—  
川柳発祥の地—榮久堂（川柳もなか）—川柳頭彰碑—新堀端—天台宗龍宝寺—伊勢屋  
集 合：都営地下鉄・浅草線・蔵前駅・A1出口前  
昼 食：伊勢屋（江戸前あなごの天麩羅）

第二期（予定）は、

- ① 将軍様の住む町<江戸城・麴町>
- ② 日本のへソ<日本橋界限>
- ③ 盆踊りのある江戸<佃島>
- ④ 芭蕉庵と木場のある町<深川>
- ⑤ 伝統が残る職人の町と子規庵の<根岸>
- ⑥ 文人墨客の隠れ家<向島>